

学燈

gakutou

【第 7 号】



山口大学教職大学院はいよいよ3年目を迎えました！

「3期生の入学に寄せて」

教育実践高度化専攻長 佐々木 司

平成 30 年 3 月、本教職大学院として初めての修了生 15 名を送り出すことができました。それぞれ、理論と実践の両面で高度な専門的能力をもち、学校現場で指導的役割を担い得る人材として活躍してくれることを願っています。

そして 4 月、3 期生となる 15 名（同 7 名、8 名）を新たに迎えることができました。本教職大学院は、学校改善・授業力向上に資する資質・能力を学校や地域の教育課題に連動させたかたちで育成することを目指



しています。それに向かって学生が取り組む実践研究を「課題解決プロジェクト型研究」と呼んでいます。まだ入学したばかりの 3 期生のみなさんではありますが、思う存分学び、そして時には悩み、苦しみ、そして立ち上がることを期待しています。どうぞ、よろしくお願い致します。

さて、本教職大学院には他にはない特徴が色々ありますが、例えば、①入学前から面談等を行い、指導を早期に開始していること、②学校実習など学校等における学びの時間が長いこと、③成長・発展の省察と教員による支援の制度が充実していることがあげられます。③については、集中講義を除く各授業で「形成的評価」（授業中間時点）、「総括的评价」（授業終了時点）を行い、修了年の夏には修了生の勤務先を指導教員が訪問・参観して、本人や上司との面談等を踏まえて教職大学院での学びが発展的に役立っていることを確認する「支援継続的评价」を実施します。

もうすぐ「形成的評価」そして初めての「支援継続的评价」ですね。これを通じて、また違う「みなさん」に会えることを楽しみにしています。

「山口大学ならではの教職大学院をめざして」

学校経営コース長 静屋 智

山口大学教職大学院がスタートして3年目を迎えました。私は主として学校経営コースに関わっています。山口大学教職大学院の特徴としては、地域拠点校方式が挙げられます。山口県内のそれぞれの地域や県立学校から現職教員の院生を迎えることによって、これからの山口県の教育をリードしていく人材をどの地域においても増やしていこうとする取組です。この取組の中核となるのは、山口県教育委員会と各市町教育委員会、そして山口大学との強い連携と人材育成戦略の共有であると考えます。

2年間という短い期間でそれぞれの院生の成長を保障するためには、教職大学院という組織全体でめざす方向性が重要になります。そこで、4月から学校経営コース研究会で「学校実習の視点」「学校組織を活性化するマネジメント」等について現職教員の院生に伝えてきました。「これからの学校のあるべき姿」を意識しながら、「なぜそうするのか、何のためにするのか」「何を成果ととらえるのか、そのために何を力クニンすべきか」等について省察を繰り返すことが大切だと考えます。

今後の授業と学校実習、フィールドワーク等での取組に生かしてほしいと思っています。



「教職大学院生の学びのおもしろさ」

教育実践コース長 田邊 敏明

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私の方から、教職大学院での学びの面白さを一つご紹介しようと思います。山口大学の教職大学院の特色は、実践と理論の融合、実践と省察の往還です。そこに潜むキーワードは、問題から「離れる」ことです。問題から離れると、問題が明らかになり、問題を扱うことができます。学校経営コースは、実践現場、つまり在籍校での問題から適度に離れ、理論（大学）に向かいながら、問題を眺め、整理し解決策を提示します。実践コースは、逆に大学、つまり理論から一旦離れて、実践に向かい、しかし学校にはどっぷりとはつからず、いい位置から学校の問題や自分の研究課題を眺めます。まず自分はなぜこの位置にいるのかを問うて下さい。この絶好の位置からは、経営コースと実践コースとも同じく、「この学校は何を求めているのか」「その中で自分は何をすればいいのか」が見えてくるはずで、学部生が一定期間だけ学校に通い詰める教育実習とも、採用されてからずっと学校に勤務するのとも違う、長期間、一定の距離から学校と研究課題を眺めるのです。離れた経験からしか味わえない、そこで見えてきたことをしっかり味わって下さい。2年後にはきっと成長した姿となっていることでしょう。

平成30年度山口大学教職大学院教員一覧（14名）※50音順

名前（よみがな）	担当科目
池田 廣司（いけだ ひろし）	「学校経営と組織開発」「学外連携・コミュニティ・スクールの理論と実践A・B」他
板垣 育生（いたがき いくお）	「学校評価と学校改善」「生徒指導の実践と課題」「学校危機管理、リスクマネジメントの理論と実践B」「教育行政インターンシップ」他
岡崎 智利（おかざき ちとし）	「授業内容構成特論」「授業デザイン総合演習」他
栗田 克弘（くりた かつひろ）	「授業内容構成特論」「教科カリキュラム開発・授業デザインと評価B」「授業実践高度化演習」他
佐々木 司（ささき つかさ）	「学校関係法令の適用と課題」「学校評価と学校改善」「教育の制度と政策」「学校経営と組織開発」「教育行政の制度と課題A・B」他
静屋 智（しずや さとる）	「学校危機管理・リスクマネジメントの理論と実践A」「教育の制度と課題A・B」「教育行政インターンシップ」他
霜川 正幸（しもかわ まさゆき）	「山口県教育の現状と課題」「学外連携・コミュニティ・スクールの理論と実践A・B」他
鷹岡 亮（たかおか りょう）	「知識基盤社会における情報活用の理論と実践A・B」「授業実践高度化演習」他
田邊 敏明（たなべ としあき）	「教育相談・特別支援教育の理論と実践A・B」「スクールカウンセリングの実践と課題」「学校不適応・問題行動等事例研究」他
藤上 真弓（ふじかみ まゆみ）	「教職員研修開発基礎」「キャリア教育実践演習」「学級経営開発基礎」他
前田 昌平（まえだ しょうへい）	「授業技術の理論と実践」「教科カリキュラム開発、授業デザインと評価A」他
松岡 敬興（まつおか よしき）	「道徳教育の理論と実践A・B」「特別活動の実践と課題」「学級経営の理論と実践」「生徒指導の実践と課題」他
美作 健悟（みさく けんご）	「教職員研修開発実践演習」「カリキュラム開発の理論と実践B」他
和泉 研二（わいずみ けんじ）	「山口県教育の現状と課題」「授業内容構成特論」他

平成30年度山口大学教職大学院院生一覧（29名）※コース・50音順

【学校経営コース】

名前（学年）	原籍校	名前（学年）	原籍校
浅野間 智子（M1）	防府市立新田小学校	伊藤 孝浩（M2）	下関市立向山小学校
上部 孝典（M1）	山口県立宇部工業高等学校	井本 絢子（M2）	周南市立熊毛中学校
近江 誠一郎（M1）	山陽小野田市立埴生中学校	川本 和敏（M2）	防府市立右田中学校
桑原 泰樹（M1）	柳井市立柳東小学校	榊原 美代（M2）	岩国市立平田小学校
友重 雅博（M1）	岩国市立岩国中学校	杉山 タ子（M2）	美祢市立大嶺小学校
平野 晶子（M1）	下関市立関西小学校	田中由起枝（M2）	萩市立大島中学校
吉永 知宏（M1）	周南市立富田西小学校	二瀬 隆雄（M2）	山口県立山口総合支援学校

【教育実践開発コース】

名前（学年）	実習校	名前（学年）	実習校
河田 拓也（M1）	山口市立湯田小学校	大塚 祐亮（M2）	萩市立佐々並小学校
川端 寧々（M1）	山口市立小郡南小学校	沖永 恵理（M2）	防府市立国府中学校
高富 璃法（M1）	山口市立宮野中学校	長富 大輔（M2）	山口市立小郡中学校
中村 仁美（M1）	附属山口小学校	末成 智宏（M2）	山口市立佐山小学校
平原 拓也（M1）	山口市立平川小学校	永富 大樹（M2）	山口市立平川中学校
榊本 慎吾（M1）	山口市立平川中学校	並河 銀野（M2）	山口市立大殿小学校
溝部 徳子（M1）	山口市立瀧南中学校	福田 晴夏（M2）	山口市立白石中学校
宮内 大輝（M1）	山口市立宮野中学校		

学校実習等でお世話になります。よろしくお願いいたします！

「教職大学院に入学し、思うこと」

【学校経営コース】

不安と緊張の中、迎えた教職大学院の入学式、そしてオリエンテーション。そこで出会った、温かく、頼もしい先生方と先輩方。そして8名の教職実践コースの院生を含めた15名の仲間と、あつという間の充実した2ヶ月が過ぎた。

4月。教職大学院での学びの中で、これからの自分の使命とその責任の重さを強く感じた。その使命とは、「学校組織を活性化し、リーダーシップを取って学校改善を図ること」である。「課題を見つけること」、「すべてを新しくすることはない。今していることを少し改めるだけでいい。」との先生方の言葉。それならできる。すべては子どものために、やってやろう。強い決意をもつことができた。

5月に入り、学校実習が始まった。原籍校をはじめ、市教委や近隣の学校、地域の方々の協力に支えられ、現場での研究のスタートを切った。「原籍校や地域の課題は何か」を常に意識して日々の教育活動を見つめ直すことで、少しずつではあるがいろいろなことに気付くことができています。その小さな一つひとつの気づきを学校改善につなげていけるようにしたい。

2年間の研究の成果が、自身の学びにとどまらず、多くの先生方や地域の方々、そしてなにより子どもたちのために生かされるよう研究に邁進していきたい。私の使命を果たせるように。(学校経営コース1年)



【教育実践開発コース】

私が教職大学院に進学しようと決意したのは、大学3年の冬だった。以前から若い時期は何からも縛られることなく自由に学びたい、そして多様な視点をもちより広い社会で生きていきたいという思いから大学院進学を考えていた。しかし、その進学先を教育学部の大学院と教職大学院で悩んでいた。そんな大学3年の冬、ある研修会の打ち上げでとある先生から、実践的な学びを求めたら学校実習がある教職大学院に来た方がよいのでは、という助言をいただき、教職大学院を進学先に決めた。

大学時代では、雲をつかむような心地で夢みていたにすぎなかった教員の世界が、教職大学院における週2日の学校実習を体験することで不安いっぱいの現実になった。そして次はその現実と向かい合わなければならない。教職大学院で仲間とともにこの世界で働くために必要な知識と技能を身につけることを実現し、教壇に立ちたい。

教職大学院の魅力は、2年間週2回の長期的継続的な学校実習を通して探求的实践と省察を行いながら実践研究ができること、大学の先生方や現職の先生方から知識や経験を教えていただけることだ。この2年間で学んだ経験が自信を生み、現場に出た時の私を前進させてくれると思う。将来の私と将来受け持つ子どもたちを支えるものは今の私である。幾多の困難が待ち受ける教員生活、「たゆたえども沈まず」という言葉もあるが、風や波に負けないような知識や技能を身につけられるよう精一杯2年間頑張りたい。(教育実践開発コース1年)